



写真 間瀬堰堤（本庄市児玉町小平）

かわはく No.42

CONTENTS

かわはく冬の企画展特集	2
夏期企画展開催報告「ひやっとコオリー水と氷のフシギ」	3
開催報告 かわはく体験教室／川に親しむ教室	4
スロープ展示紹介「埼玉県の近代化産業遺産」	5
かわはくボランティアより ガリバーウォークの見どころ	6
かわはくであそぼう・まなぼう 「利き水体験」	7
コラム 冬の虫	7



かわはく冬の企画展特集

川の博物館では、冬期に3つの連携展と、絵画を中心とした芸術作品を紹介するミニ企画展「かわはく冬の絵画展」を予定しています。かわはくでアート作品に触れる機会を、お見逃しなく！

連携展

彩の国環境地図作品展

12月6日(火)～12月18日(日)

10年目を迎える環境地図作品展は、埼玉県内の学校に通う生徒がそれぞれの視点で見た“ことから”を地図にした作品展です。生き物、街のしくみ、地名などを地図で表現します。今年度は130点の応募があり、その中から選ばれた優秀賞の24点を展示します。

平成23年度荒川図画コンクール

12月23日(金)～2012年1月9日(月)



2011 川の博物館長賞
小川町立小川小学校3年 鈴木 榊乃さん

この図画コンクールは、河川愛護に関する広報活動の一環として、平成元年から始まったコンクールです。小学生に荒川の絵

を描いてもらうことにより、河川美化、愛護の意識や河川への意識を啓発することを目的としています。今年度は埼玉県内35市町村165校より、2,495点の作品が寄せられました。かわはくでは初の試みとして、入選・佳作を含む入賞作品162点全てを展示します。

第4回川の国埼玉フォトコンテスト

2012年2月7日(火)～2月26日(日)

魅力的な水辺のスポットが数多く存在する日本一の「川の国」埼玉。より多くの人に親しみと憩いの場として知ってもらうためにフォトコンテストを開催しています。プロ・アマ問わず誰でも応募出来るコンテストです。今年は814点の応募(ジュニアの部64点、一般の部750点)が寄せられ、その中から今年度入賞した作品全てを展示します。
(事業推進部 若目田 葉子)

冬の絵画展

押し花で荒川を描く

2012年1月10日(火)～1月29日(日)

かわはく冬の絵画展のトップを飾るのは、荒川流域の姿を押し花で描いた、「押し花で荒川を描く」です。作品を出品して頂くのは、秩父市や長瀨町を中心に活動している、「ミル・フルールnora」と「押し花ぐるーぶ・かぎろい」の皆様です。

ちょっと見ただけだと、水彩画や油絵のようにも見えるかもしれませんが、背景などの一部を除いて全て荒川流域に生育している植物を使用して描かれています。普段見慣れている荒川の姿とは少し雰囲気違った、押し花で描かれた荒川の姿をお楽しみください。(研究交流部 羽田武朗)

荒川を歩いて描く

2012年1月14日(土)～1月29日(日)

作者の竹内眞治氏は熊谷市のご出身、そして今も熊谷市にお住まいの荒川にゆかりの深い方です。氏は荒川の源流である奥秩父から河口の東京湾まで100景を描いてみたいと、定年後初めて

キャンパスを持って一人旅にでました。春はウグイス、秋は赤トンボを見ながら、雄大な荒川を肌で感じて自らの足で一步一步あゆみ、7年間かけて描き続け、夢がかないました。極暑でキャンパスに汗が、極寒で指の動かない時も、時には崖から落ちそうなこともあったそうです。

「母なる川、又時には父のような荒川」とおっしゃる竹内氏が、油絵で表現した作品を通して郷土荒川を眺めてみるのは如何でしょうか。

(研究交流部 藤田宏之)

日本のボタニカルアートの先人達

2012年2月4日(土)～2月26日(日)

主に杉崎ボタニカルアート工房コレクションの中から、日本ボタニカルアートの先駆者と言われる太田洋愛、二口善雄、藤島淳三、佐藤廣喜各氏の原画を中心に展示します。他に、手紙・本などの資料や、現在活躍するボタニカルアーティストの作品も展示します。ボタニカルアートの魅力を是非味わってください。(研究交流部 森 圭子)



夏期企画展開催報告

「ひやっとコオリー水と氷のフシギ」

会期：平成23年7月16日(土)～9月4日(日)

今回の企画展は、身近にあって知っているようで知らない水と氷のオモシロイ性質について興味を持ってもらいたい、という考えがあって企画しました。また暑い夏に氷の話、ということで、企画展会場で水の美しい写真を見たり、氷のことについて考えたりすることで涼をとってもらいたいという思いもありました。

初めの「地球上の水」のコーナーでは、地球にある水の殆どは海水としてあること、氷として存在しているものはそのほとんどが南極にあることなどをパネルやペットボトルの水で紹介すると共に、南極の棚氷の大きな写真も展示しました。開催期間中に会場受付をしていた際、入り口に飾った雪華模様のタペストリー（田村智美氏作）の下をくぐり、大きく打ち出した南極の写真を見た年配のお客様が、「ああ、これを見るだけで何だか涼しくなるねえ！」という声を聞いたときには、意図していたことが実現したかな？と嬉しくなりました。このコーナーにあった南極の氷（見るだけでしたが）と流氷（こちらは触るのもOKでした）も子供たちに人気がありました。

次は「氷の造形」「雪の結晶」「雪の造形」とコーナーが進み、水と氷の性質を理解する上で必須である“水分子の構造”について解説しました。今回のテーマはオモシロイけれど難しい内容です。どのようにすれば、来場者に面白く見てもらえるだろうかと考え、解説パネルは大人向けと子供向けの両方をつくりました。準備には苦労しましたが、その甲斐あってか、アンケートでは大人の方からは“勉強になった”、小学生からも“いろいろなことがわかった”、などといった感想をいただきました。雪の結晶コーナーではダイヤモンドダストの実験を設け、興味のある方には自分でダイヤモンドダストを発生させて観察してもらるようにしました。うまく見ると、「うわあー、きれい！」という声も上がっていました。でも、冷凍庫を使った簡単な実験なので、成功率は4割ほどだったでしょうか。何度やってみてもうまくいかなかった方は、すみませんでした…。関心は高かったようで来場者の3分の1くらいの方が挑戦

していたようです。家でもできると思うので、興味のある方は是非挑戦してみてくださいね。

また、今回の展示は、氷あるいは雪のカタチの美しさや迫力からも興味をもってもらいたいと、大き目の写真をスペースが許す限り展示しました。スイスの氷河、川の水が流れのままに凍った写真、樹霜、樹の先から滴る水が凍ったものなど、水が様々な形で凍った写真を一枚一枚丁寧に見ていた方もいらっしゃいました。

展示の中ほどでは、トピックとして「雪上の虫、セッケイカワゲラ」を紹介しました。成虫は雪の上でえさを食べ、上流に向かって歩きます。そんなフシギな虫に興味津々の人もいました。

雪や氷をデザインした作品などを紹介した中には、江戸時代に作られた、雪華模様のついた刀のつばや、石川県にある中谷宇吉郎 雪の科学館で開催されている「雪のデザイン賞」に出品された作品などを展示し、一部はミュージアムショップで販売しました。

続くコーナーでは、全国的にはまれになるも長瀬町で今も毎年作られている天然氷の製作について紹介しました。天然氷を作るには、氷を作る池の掃除、氷が張り始めてからは落ち葉の掃除や、雪が降る夜には一晩中雪をはく作業など、とにかく氷をきれいに保つ、という作業がとても多いこと、知っていただけただしょうか。

後半では「日本の雪気象」として、雪の降り方の解説、「雪と暮らす」として雪国の暮らしに必要な道具や、今も活躍する除雪車の話、皆さんがおそらく冬に使うスタッドレスタイヤについて雪と氷の解説を交えて紹介しました。また「氷の利用」として凍ることを利用した食べ物と雪氷上のスポーツを紹介しました。古いスキーやスケートも紹介したので懐かしく見ていただいた方もいらっしゃったようです。

来場者の中には、夏の自由研究のテーマに氷を選んでくれた子供たちもいたようです。うまくいったかな？また質問があれば、川の博物館に訪ねてください。

(研究交流部 森 圭子)



開催報告 かわはく体験教室／川に親しむ教室

「伝統漁法体験」

夏休みの恒例行事となりました体験イベントの伝統漁法体験は本年も8月18日(木)に開催されました。毎年開催の前日は天気予報に一喜一憂しますが、実演・指導には埼玉中央漁協寄居支部にご協力いただき、雨降りや川の増水もなく猛暑日ではありましたが楽しく終えることができました。

まず投網の実演では名人の技が披露されました。ぱっときれいに広がった網は「お見事」のひとつことです。手繰りよせた網から魚の鱗がキラッと光ると歓声があがりました。名人の技に追いつ



投網名人の技をご覧ください！

けど、ひとつ目の体験として投網を練習しました。すぐ上手に投げられるほど簡単ではありませんが、才能の片鱗をうかがえる参加者もいたことは間違いありません。

そしてメインの体験は、ライフジャケットを着用し川に入って魚釣りをする「立ちこみ釣り」です。細い竹竿に短い道糸と針だけの簡単な仕掛けで、餌はその場で捕まえた川虫というとてもシンプルなお釣りで釣ります。

参加者一斉に川に入りますが、川虫を探すのに、また針に餌を付けるのに四苦八苦もあり、魚を釣り始めるまでも大事な体験です。また、魚のあたりを的確に合わせるのもコツがいりますが、ここでも才能の片鱗がうかがえる参加者がいました。

さいごに、ただひとつ気になったのは、生態系に影響がある外来魚のコクチバス稚魚が数多く投網で捕獲され、立ちこみ釣りでも釣れてしまったことです。岸から見えないところでも荒川の環境が変化している証といえるのではないのでしょうか。(研究交流部 藤田 宏之)

開催報告 かわはく体験教室／川に親しむ教室

「砂金採り教室」

9月25日(日)に、砂金採り体験教室を行いました。川の博物館がある寄居町の荒川では、運が良ければ砂金を採取することができます。

今年は9月に入ってから2つの台風が上陸しました。台風12号による大雨では、かわせみ河原が完全に水没するほどの増水が起きました。台風前の荒川の水位に戻る前に、今度は台風15号が上陸し、大雨で再びかわせみ河原が水没するまで水位が上昇しました。台風15号による増水は、砂金採り教室開催まで1週間をきっている時期だったため、今回のイベント開催が危ぶまれましたが、何回も下見を行い、川の流れが比較的緩やかな部分で開催することにしました。当日は晴天に恵まれましたが、川の水は濁った状態でした。



砂金採取体験の様子

が、何回も下見を行い、川の流れが比較的緩やかな部分で開催することにしました。当日は晴天に恵まれましたが、川の水は濁った状態でした。

砂金採り教室は、24名の参加者全員がやる気満々の状態で始まりました。講座室で川での注意事項をお話しした後、かわせみ河原に向かい、私が採取方法の実演説明を行った後、1時間ほど砂金採り体験を行いました。

一組の親子が砂金を1粒採取し、喜びのガッツポーズを見せてくれました。下見の際、私は1時間弱で2粒の砂金を採取しています



砂金ゲットでガッツポーズ

が、これらは、台風の増水によって上流から砂金が運ばれてきた結果なのかもしれません。なお、台風による増水後、かわせみ河原付近の荒川流路は4年ぶりに変化しました。

講座室に戻ってから、埼玉県の地質についてのお話と、秩父鉱山で採取できる鉱物の紹介もあわせて行いました。

来年も砂金採り教室を開催する予定です。よかったですら、お申し込みの上、参加してみてくださいね。(研究交流部 杉内 由佳)



スロープ展示紹介「埼玉県の近代化産業遺産」

期間:2011年10月4日(火)~2012年2月5日(日)

東京の通勤圏として、鉄道や幹線道路を中心に、南部から北部まで、すっかり都市化が進んでしまった埼玉県。誰もが子供の頃に夢見た、近未来を予感させるような高層ビルや高層マンションが建ち並んだ町並みも、最近ではすっかり見慣れてしまいました。

とはいえ、ふと街角で立ち止まると、そのような高層ビルの合間などにも、明治~昭和初期にかけて建造されたレトロな建物が建っていることもあります。

また、埼玉の母なる川、荒川の流域に目を向けると、横堤（さいたま市など）、岩淵水門（東京都北区志茂）、荒川放水路（現・荒川本流）などの治水施設なども、優れた近代土木建築として高い評価を受けています。

今回のスロープ展では、旧岩淵水門や荒川放水路に改めてスポットをあてながら、埼玉県内に残る近代化産業遺産の紹介をしています。

近代化産業遺産や近代化遺産といった名前だけ

を聞くと、「それってどこにあるの？」っと、思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、普段何気なく暮らしていると気がつかないだけで、実は意外と身近なところに明治~昭和初期にかけて建造されたレトロな建物が残っているものです。

例えばそれは、自分が通った学校の校舎であったり、普段渡っている近所の橋であったり、自宅の最寄りの駅だったり、博物館の建物であったり、昔からよく遊びに行っている公園であったりと、実に様々ですが、そのような建造物も実は近代化産業遺産であったりします。

今回の展示で紹介できた県内の近代化産業遺産はほんのひとかけらに過ぎませんが、ぜひ皆さんも一度、かわはくに来館し、展示を見ていただいて、その後に自分の住んでいる地域を改めて探検してみてください。その探検の中で思いがけない発見が待っているかもしれませんよ。

(研究交流部 羽田 武朗)



旧岩淵水門（赤水門）（東京都北区志茂）



旧日本赤十字社埼玉県支部社屋（嵐山町鎌形）
*写真の撮影は許可を得て行いました。



間瀬堰堤（本庄市児玉町小平）



旧草加小学校西校舎（現・草加市立歴史民俗資料館）
（草加市仲町）



かわはくボランティアより

ガリバー ウォーク の見どころ



博物館屋外施設の中で、荒川大模型173は埼玉県之母なる川「荒川」の千分の1の精密模型です。甲斐（山梨県）、武蔵（埼玉・東京都）、信濃（長野県）の県境の山、甲武信岳（2475m）から東京湾の河口点まで173kmを約20分程度で荒川と私たちの暮らしとの関わりを、模型を見ながら歩いて解説します。模型でなく実際に歩く方もいますが、一日30km歩いて約一週間ほどかかる長さです。

ガリバーウォークと呼ばれている荒川大模型173は縮尺から1m→1mm、1000m→1mになります。荒川の長さは秩父市大滝の基点から東京湾の河口点まで173kmあり模型では173mになります。反対にガリバーになるのは身長1m60cmの人はガリバー旅行記のガリバーのように1600mの大巨人になります。また、歩幅60cmの人の一歩は600mの歩幅になり、模型にそって歩く解説をガリバーウォークと呼ぶと先輩から聞いています。

埼玉・東京と人口が多く、大都市を流れ、河川敷や堤防に散歩や季節の移り変わりを見にこられる人には荒川の一部しか見ることができませんが、大模型はヘリコプターに乗って上空から見下ろすようになり、川の形状などはよくわかります。

見所は現流域から河口まで上空から見下ろすように見ることです。



写真①立体感がすばらしい源流域



例えば熊谷から都境までは蛇行の連続であった旧流路は改修され、河川敷を広く、横提、調整池など治水対策がされ、流れが直線的になっていることがわかります。また荒川の水だけでは足りないで利根川の水を引き込む武蔵水路や秋が瀬大堰で水位を上げて埼玉県は大久保浄水場、東京都は朝霞浄水場で取水しています。（写真②③）



都内に入ると荒川は、北区岩淵で本流と隅田川に分かれます。明治43年の大洪水で翌年から20年かけて東京湾まで約20km開削し、昭和40年に本流になりました。（写真④）

見所はまだいろいろありますので、次回は荒川大模型173のガリバーウォークを是非体験しに来てください。（かわはくボランティア 奈良 義之）



● かわはくであそぼう・まなぼう ● 「利き水体験」

8月1日は、水の大切さを知ってもらうことを目的に制定された「水の日」です。かわはくでは毎年この水の日を記念して、「利き水体験」を実施しています。

今年度は、博物館実習生がこの利き水体験のイベントプログラムを作成し、かわはくのスタッフと共に、共同で実施しました。

実施したプログラムは3つで、1つは軟水や硬水、3つの水の中から一番美味しい水を投票して決めてもらう「かわはく利き水総選挙」。2つ目は、タニシを使用した「水の浄化実験」。そして3つ目は楽しく学ぶ、「ペーパークロマトグラフィー」。

利き水総選挙の結果はどうだったのかと言いますと、来館者の皆様の支持を受けてめでたく1位を獲得したのは、軟水の「南アルプスの天然水」でした。

タニシの浄化実験では、最初は真っ白に濁っていた米のとぎ汁が、あっという間にキレイになり、来館者の皆様もそしてかわはくのスタッフもその

劇的な変化に驚きました。

「軟水や硬水によってホントに水の味が違うのか?」、「タニシを使うと水は本当に浄化するのか?」などなど…気になった方はぜひお家で実験してみてください。やり方がわからなければ、かわはくまで連絡をもらえれば、やり方を教えますよ。
(研究交流部 羽田 武朗)



「利き水体験」の様子

コラム 冬の中

秋、木についていた葉っぱも紅葉し、空っ風に吹かれて落ちてゆきます。これから冬を迎える虫たちにとって堪え忍ぶ時期がやってきます。ところが秋から冬にかけて活動する虫たちがいるのです。虫はたいがい夏に活動するものというイメージがあります。ところがこれから紹介する虫たちは寒くないと活動ができない、つまり暑いと死んでしまう一風変わった虫たちです。

冬の雑木林に行ってみましょう、夏には緑の葉っぱが生い茂っていたとは思えないほど寂しく



クロスジフユエダシャク、メス成虫

なっています。そんな雑木林の夜をのぞいて見ましょう。風の少ない夜の林でひらひらと飛ぶものがあります。フユシャクです。(ガの仲間)

寒い冬の夜に活動するだけでなく、さらに変わった特徴があ



チャバネフユエダシャク、オス成虫

ります。オスにはハネがあるのですが、メスにはハネが無く、飛ぶことができません。ハネがないためオスがメスのもとに飛んで来ます。そして、交尾をし、卵を産んで一生を終えます。

こんな不思議なガですが、幼虫時代は他のチョウやガと同じれっきとしたイモムシで、葉っぱを食べて生活しています。

今年の冬は近くの雑木林でフユシャクを探してみたいかがですか? (研究交流部 石井 克彦)

※「フユシャク」という名前は総称です。この仲間は日本に約35種類が知られています。

12月

12/6/火~12/18/日

企画展「荒川図画コンクール」

12/23/金~1/9/月

平成23年度荒川図画コンクール

4/日 かわはくであそぼう・まなぼう
「クリスマスかざりづくり」
時間：13：30~15：30
内容：クリスマスにかざれるカードなどをつくりま
す。

17/土 かわサタ自然教室「木の実でオブジェをつくろう」
時間：13：30~15：30
費用：100円（材料費）
定員：25名（申込順）☎
内容：どんぐりを使ってオブジェやクリスマスかざ
りをつくりまします。

23/金祝~25/日

クリスマスイベント

時間：夕暮れ~閉館まで

内容：かわはくでささやかなイルミネーションやク
リスマス飾りを楽しめます。

2月

2/4/土~2/26/日

日本のボタニカルアートの先人達

2/7/火~2/26/日

第4回「川の国埼玉 フォトコンテスト」

5/日 荒川ゼミナール・講演会「忍城水攻めと荒川」(仮)
時間：13：30~15：30
費用：無料（入館料のみ）
定員：80名（申込順）☎
内容：小説「のぼうの城」の舞台となった忍城水攻
めのお話です。

12/日 かわはくであそぼう・まなぼう
「おひなさまづくり」
時間：13：30~15：30
内容：ひな祭りに合わせておひな様作りに挑戦しま
す。

25/土 かわサタ自然教室「廃油でキャンドルづくり」
時間：13：30~15：30
費用：100円（材料費）
定員：25人（申込順）☎
内容：廃油を使ってエコキャンドルをつくりまします。

1月

1/10/火~1/29/日

企画展「押し花で荒川を描く」

1/14/土~1/29/日

企画展「荒川を描いて歩く」

8/日 かわはくであそぼう・まなぼう 「お正月遊び」
時間：①10：00~12：00 ②13：00~15：00
内容：コマまわしやカルタなど伝統あそびを体験できま
す。

12/木 荒川ゼミナール・大人の遠足「荒川河口を見る」
時間：13：00~16：00
費用：100円（保険料）
定員：30名（申込順）☎
内容：隅田川を下りながら川と人々の暮らしを体験しま
す。

14/土 企画展関連イベント「親子押し花絵体験教室」
時間：13：00~15：30
費用：1家族500円
定員：親子10組（申込順）☎
内容：親子で1枚、小型額縁サイズの押し花絵を作成しま
す。

15/日 荒川ゼミナール・講演会「荒川の野を駆け抜けた
兵たちー荒川流域の武蔵武士と城館跡」
時間：13：30~15：30
費用：無料（入館料のみ）
定員：80名（申込順）☎
内容：「武蔵武士」に関するお話です。

28/土 かわサタ自然教室「冬の星座観察会」
時間：17：00~19：00
費用：100円（材料費）
定員：25人（申込順）☎
内容：星座早見版をつくって星空の観察をしまします。

3月

3/10/土~5/6/日

日本の運河・世界の運河

4/日 荒川ゼミナール・講演会「かわはくで鑑トーク」
時間：13：30~15：00
費用：無料（入館料のみ）
定員：50人（申込順）☎
内容：鑑を間近に見ながら、鑑のおもしろさを学びま
す。

25/日 かわはく春祭り
時間：10：00~16：00
内容：各種子供向けイベントを開催予定です。

25/日 かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」
時間：①10：00~12：00 ②13：00~15：00
内容：液体窒素を使った実験のデモンストレーショ
ン見学や、静電気あそびが体験できまします。

31/土 かわサタ自然教室「おたまじゃくしを観察しよう」
時間：13：30~15：30
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順）☎
内容：おたまじゃくしを観察しに、河原へ行きます。

*イベントは電力事情により変更、中止になることがあります。事前にご確認下さい。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



彩の国さいたま

2011年11月25日発行

